

ママに感謝

平岡 秀貫ひらおか しゅうが

「秀ちゃん、秀ちゃん」ってママがまたぼくをよんでいる。ぼくは少しムカつきながらゲームをやめてママのところへ行った。ママは大量の洗たく物をぼくにわたして

「ありがとう」と笑顔で言った。

ぼくは五人兄弟の二番目で、兄弟みんな男の子で下の二人は3才の双子だ。ママは毎日忙しい。朝はぼくたちよりも早く起きて朝ごはんの用意をしてくれて洗たく物もほして、ギヤーギヤー泣きながら起きてくる双子を抱っこしながらぼくたちを見送る。仕事から帰って来ても座ることもなく洗たくをとりこんで夜ご飯の用意をしてぼくたちの習い事の送迎をしたり双子を迎えに行ったり、まるで巣を作る鳥みたいに動いている。

ぼくもママと双子を保育園に迎えに行ったり双子と一緒に買い物に行くことがあるけど本当に大変だ。双子の名前はかいらとれんり。かいらとれんりはママの言うことを全然きかなくてお買い物カートの取り合いをしたり、カゴにいっぱいおかしを入れたり、走り回ったりしてぼくがいつもそれを止める。買い物に行くといろんな人がかいらとれんりを見て「双子ちゃん？かわいいねえ」と言うけど、正直ぼくはそれどころではない。ぼくのパパは消防士で夜もいない日が多い。パパがいない日はママはいつも以上にぼくの名前をよぶ。

「秀ちゃん、お茶入れてあげて」

「秀ちゃん、手ふいてあげて」っていっぱいママはぼくに頼むからぼくは時々嫌になる。

でも、この前突然ママの声が出なくなつて頭が痛い寝こんでしまった。パパとぼくたちはいつもママがやっている家のことをやらないといけなくてその時にママの大変さがすごく分かりました。どんなに仕事で疲れていてもぼくたちのために動いてくれておいしいご飯を作ってくれていつも

「秀ちゃん、今日学校楽しかった？」とぼくの話聞いてくれる。ぼくがイライラしてママに冷たい態度をとつてもママは怒らずに、「どうしたの？」と聞いてくれる。ぼくはそんな優しいママが大好きです。前にママに聞いたことがあります。

「ママ、毎日大変なのになんで五人も子供を産んだの？」って。ママは、

「ママは一人っ子でさみしかったから、兄弟はたくさんいた方が楽しいと思って。」と言った。今、夏休みで兄と三番目の弟と留守番をしているけど、これが一人だったらと思うとぼくはきつと怖くて家で留守番もできない。

こんな毎日大変になることが分かっているけど産んでくれたママに感謝しています。もう、何回「秀ちゃん」てよばれてもすぐにママのところへ飛んで行きます。いつか大きくなったらママを楽にさせてあげたいです。本当に毎日お疲れさまです。ママいつもありがとう。